

かんきつ（殺菌剤）
指針採用農薬一覧表

病害虫名 農薬名（商品名）	そうか病	かいよう病	黒点病	黄斑病	褐色腐敗病	灰色かび病	貯蔵病害	汚れ果症
ICボルドー66D	●	●	△					
ICボルドー412		●	△					
アリエッティ水和剤					●			
エムダイファー水和剤			●					
オキシンドー水和剤80	△		●	●				
カナメフロアブル	△		●			△		
カスミンボルドーノ銅バースン水和剤		●						
キノンドー水和剤80			●			△		
キンセツ水和剤		●						
クプロシールド	△	●	△					
クミガードSCフロアブル	△	●	△					
ケンジャフロアブル	△		△			●		
コサイド3000		●	△		△			
ジマンダイセン水和剤	△*		●	●	●			●
ジャストフィットフロアブル					●			
ストロビードライフロアブル	●		●	●	●	●		△
スミレックスくん煙顆粒						●*		
ダイマジン	△					△		●
デランフロアブル	●		●					
トップジンM水和剤	△*					△*	●	
ナディーボフロアブル	●		●			●	△	
ナリアWDG	●		△			●		
ムッシュボルドーDF	△	●	△					
バリダシン液剤5		●						
バレード15フロアブル	△		●			△		
ファンタジスタ顆粒水和剤	△		△			●		
フジドーLフロアブル	△	●						
フルーツセイバー	●		●			●		
フルビカフロアブル						●		
フロンサイドSC	●		●			●		
ベルコート水和剤	△					●	△	
ペンコゼフ水和剤	△*		●		●			●
ペンレート水和剤	△*					△*	●	
ポトキラー水和剤						●		
マイコシールド		●						
マスタビース水和剤		●						
マネージDF	●							
ライメイフロアブル					●			
レーバスフロアブル					●			
Zボルドー	△	△		●				

(1) そうか病 *Elsinoë fawcettii*

(生態と防除のねらい)

- ① 雨媒伝染性の病害で、降雨がなく湿度が低いと発病せず、逆に降雨が多く湿度が高いと発病は多くなる。
- ② 第一次伝染源は樹上で越冬した葉や枝上の病斑である。
- ③ 初発病時期が早いか初発時の発病程度が高いと被害が大きくなるため、葉及び果実への感染のはじまる直前の予防散布が重要である。
- ④ 発芽期（新芽 5～10mm）の 4 月上・中旬、落花期の 5 月中・下旬、果実指頭大期の 6 月上・中旬に散布する。

農薬名			毒性	備考
FRAC	商品名	一般名		
M01	I C ボルドー 6 6 D	銅水和剤	普	かんきつ
M09	デランフロアブル	ジチアノン水和剤	劇	かんきつ
3	マネーじ D F	イミベンコナゾール水和剤	普	かんきつ
3 11	ナティーボフロアブル	テブコナゾール・トリフロキシストロビン水和剤	普	かんきつ
7	フルーツセイバー	ペンチオピラド水和剤	普	かんきつ
11	ストロビードライフロアブル	クレソキシムメチル水和剤	普	かんきつ
11 7	ナリア W D G	ピラクロストロビン・ボスカリド水和剤	普	かんきつ
29	フロンサイド S C	フルアジナム水和剤	普	かんきつ

(薬剤使用上の注意事項)

- ① 開花期以降のデランフロアブルとマシン油乳剤(97%)との混用散布は薬害を生じるおそれがある。開花期以降に使用する場合は、マシン油乳剤(97%)との散布間隔を30日程度あける。

(2) かいよう病 *Xanthomonas citri* subsp. *citri*

(生態と防除のねらい)

- ① 病原細菌は、水滴によって運ばれ、気孔から組織内に侵入する。強風を伴うと病原細菌が広い範囲に飛散し、風傷害が新たな侵入口となるので防風対策を徹底する。
- ② 組織内に侵入した病原細菌に対しては薬剤の効果はほとんど及ばないので予防散布を原則とする。また、病原細菌の密度が高くなると防除が困難となるので注意する。
- ③ 発芽前の3月上・中旬、展葉期の4月下旬、落花期の5月中・下旬、果実指頭大期の6月上・中旬及び夏秋梢伸長期に散布する。
- ④ ミカンハモグリガ幼虫の食害痕からも病原細菌が侵入し、重要な伝染源となるので、ミカンハモグリガの防除を徹底し、不要な夏秋梢は剪除する。
- ⑤ 品種によって抵抗性が著しく異なり、同一品種でも若木の時や高接ぎ直後の新梢伸長期には、感受性が高くなる。
感受性の高い品種（ネーブル、甘夏、カボス）は、適宜防除回数を増やす必要がある。
- ⑥ 台風期の防除は、襲来前の散布が重要である。

農薬名			毒性	備考
FRAC	商品名	一般名		
M01	I C ボルドー 6 6 D	銅水和剤	普	かんきつ
M01	I C ボルドー 4 1 2	銅水和剤	普	かんきつ
M01 M01	キンセツ水和剤	銅・有機銅水和剤	普	みかん かんきつ（みかんを除く）
M01	クプロシールド	銅水和剤	普	かんきつ
M01	コサイド 3 0 0 0	銅水和剤	普	かんきつ
M01	ムッシュボルドー D F	銅水和剤	普	かんきつ
M01	フジドー L フロアブル	銅水和剤	普	かんきつ
M01	クミガード SC フロアブル	銅水和剤	普	かんきつ
24 M01	カスミンボルドー 銅水和剤	カスガマイシン・銅水和剤	普	みかん かんきつ（みかんを除く）
U18	バリダシン液剤 5	バリダマイシン液剤	普	かんきつ
41	マイコシールド	オキシテトラサイクリン水和剤	普	みかん かんきつ（みかんを除く）
NC	マスタピース水和剤	シュードモナス ロデシア水和剤	-	かんきつ

(薬剤使用上の注意事項)

- ① I C ボルドー 6 6 D ・ 4 1 2 を新梢伸長期に使用すると、石灰による葉やけを生じる場合があるので、必ずアピオン E 1,000 倍を加用する。
- ② コサイド 3 0 0 0、キンセツ水和剤、カスミンボルドー、銅水和剤、フジドー L フロアブルには、銅の薬害軽減のためクレフノン（炭酸カルシウム）200 倍を必ず加用する。

(3) 黒点病 *Diaporthe citri*

(生態と防除のねらい)

- ① 雨媒伝染性の病害で、発生は落花後～収穫期までの降雨に影響され、梅雨期と秋雨期に最も多く伝染する。
- ② 主要な伝染源は樹上の枯れ枝で、直径5～10mm程度の枯れ枝は保菌率が高い。
枯れ枝剪除を行うとともに、剪定や肥培管理に留意して、樹勢の維持強化に努め、枯れ枝の発生を抑えることが重要である。
- ③ 落花期の5月中・下旬、果実指大期の6月上・中旬、梅雨期の7月上旬、後期感染初期の8月中・下旬に散布する。
7、8月は降雨があれば感染するので、戻り梅雨や冷夏の年は十分注意する。

農薬名			毒性	備考
FRAC	商品名	一般名		
M01	オキシンドー水和剤80 キノンドー水和剤80	有機銅水和剤	普	みかん かんきつ（みかんを除く）
M03	エムダイファー水和剤	マンネブ水和剤	普	みかん かんきつ（みかんを除く）
M03	ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤	マンゼブ水和剤	普	みかん かんきつ（みかんを除く）
M09	デランフロアブル	ジチアノン水和剤	劇	かんきつ
3 11	ナティーボフロアブル	テブコナゾール・トリフロキシストロビン水和剤	普	かんきつ
7	フルーツセイバー	ペンチオピラド水和剤	普	かんきつ
7	カナメフロアブル	インビルフルキサム水和剤	劇	かんきつ
7	パレード15フロアブル	ピラジフルミド水和剤	普	かんきつ
11	ストロビードライフロアブル	クレソキシムメチル水和剤	普	かんきつ
29	フロンサイドSC	フルアジナム水和剤	普	かんきつ

(薬剤使用上の注意事項)

- ① ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤は、温州以外の品種では夏季高温時に乳剤と混用すると薬害を生じやすいので注意する。

(4) 黄斑病 *Mycosphaerella citri*, *M. horii*

(生態と防除のねらい)

- ① 樹勢の低下した、肥料不足の園で発生しやすいため樹勢を保ち、通風や採光をよくする。
- ② 落花期の5月中・下旬、果実指大期の6月上・中旬、梅雨期の7月上・中旬に葉裏によくかかるように散布する。

農薬名			毒性	備考
FRAC	商品名	一般名		
M01	オキシンドー水和剤80	有機銅水和剤	普	みかん かんきつ（みかんを除く）
M01	Zボルドー	銅水和剤	普	かんきつ
M03	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	普	みかん かんきつ（みかんを除く）
11	ストロビードライフロアブル	クレソキシムメチル水和剤	普	かんきつ

(5) 褐色腐敗病 *Phytophthora citricola*, *P. citrophthora*

(生態と防除のねらい)

- ① 病原菌は、土壤中に生存し、水中でよく繁殖する。
- ② 発生は、一般に局所的で水田転換園のような低湿地や清耕栽培園に多く、また 8～10月にかけて長雨が続く場合やその間のスプリンクラ灌水で発生することが多い。
- ③ 一般に極早生・早生温州の被害が大きい。
- ④ 園内の排水溝の整備や風通しの改善などで地表面の乾燥に努める。さらに、被害果の持ち出し、結果枝のつり上げ、土壌の跳ね上がり防止も有効である。
- ⑤ 早期発見に努め、初発直後と5～7日後に散布する。

農薬名			毒性	備考
FRAC	商品名	一般名		
M03	ジマンダイセン水和剤 ベンコゼブ水和剤	マンゼブ水和剤	普	みかん かんきつ（みかんを除く）
11	ストロビードライフロアブル	クレソキシムメチル水和剤	普	かんきつ
21	ライメイフロアブル	アミスルプロム水和剤	普	かんきつ
P07	アリエッティ水和剤	ホセチル水和剤	普	かんきつ
40	レーバスフロアブル	マンジプロパミド水和剤	普	かんきつ
43 40	ジャストフィットフロアブル	フルオピコリド・ベンチアバリカルブイソプロピル水和剤	普	かんきつ

(6) 灰色かび病 *Botrytis cinerea*

(生態と防除のねらい)

- ① 枯死花弁に寄生した、分生子や菌糸により幼果に傷害が生じる
- ② 花弁が幼果に長期間付着していると発生が多くなるので、ハウス栽培などでは、落弁期に散水して花弁を落とすと予防効果が高い。
- ③ 本病原菌は、薬剤耐性がつきやすいため、防除にあたっては同一系統の薬剤の連用を避け、別系統の薬剤と組み合わせて使用する。
- ④ 満開～落花期の5月中・下旬に散布する。

農薬名			毒性	備考
FRAC	商品名	一般名		
M07	ベルクート水和剤	イミノクタジナルベシル酸塩水和剤	普	みかん かんきつ（みかんを除く）
2	スミレックスくん煙顆粒	プロシミドンくん煙剤	普	みかん
3 11	ナティーボフロアブル	テブコナゾール・トリフロキシストロビン水和剤	普	かんきつ
7	フルーツセイバー	ベンチオピラド水和剤	普	かんきつ
7	ケンジャフロアブル	イソフェタミド水和剤	普	かんきつ
9	フルピカフロアブル	メパニピリム水和剤	普	かんきつ
11	ストロビードライフロアブル	クレソキシムメチル水和剤	普	かんきつ
11 7	ナリアWDG	ピラクロストロビン・ボスカリド水和剤	普	かんきつ
11	ファンタジスタ顆粒水和剤	ピリベンカルブ水和剤	普	かんきつ
29	フロンサイドSC	フルアジナム水和剤	普	かんきつ
BM02	ボトキラー水和剤	バチルス ズブチリス水和剤	-	かんきつ ダクト内投入

(7) 貯蔵病害 *Penicillium italicum*, *P. digitatum*, *Alternaria citri*, *Phoma erratica* var. *mikan*, *Diaporthe citri* など

(生態と防除のねらい)

① 果実の腐敗防止は薬剤防除だけでなく、肥培管理により貯蔵性の高い果実を作り、収穫期には果実に出来るだけ傷をつけないように注意する。

農薬名			毒性	備考
FRAC	商品名	一般名		
1	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	普	みかん かんきつ（みかんを除く）
1	ベンレート水和剤	ベノミル水和剤	普	みかん かんきつ（みかんを除く）
M07	ベルクートフロアブル	イミノクタジナルベシル酸塩	普	みかん かんきつ（みかんを除く）

(薬剤使用上の注意事項)

① トップジンM水和剤を使用した場合には、ベンレート水和剤を使用しない。ベンレート水和剤を使用した場合には、トップジンM水和剤を使用しない。

(8) 汚れ果症

(生態と防除のねらい)

① 「不知火」の赤道面から果頂部側に小さな黒点症状を生じ、外観を著しく損ねる。症状が激しい場合はシワ状になり、商品価値を著しく損ねる。

② 施設栽培での被害が大きく、果実肥大期の湿度が高く果面に結露を生じるような条件下での発生が多い。

③ 黒点病の防除を兼ねて、落弁期から収穫90日前まで1ヵ月間隔または累積降雨量200～250mmごとにジマンダイセン水和剤やベンコゼブ水和剤による防除を行う。

農薬名			毒性	備考
FRAC	商品名	一般名		
M03	ジマンダイセン水和剤 ベンコゼブ水和剤	マンゼブ水和剤	普	かんきつ（みかんを除く）
M07 17	ダイマジン	イミノクタジナルベシル酸塩・フェンヘキサミド水和剤	普	かんきつ（みかんを除く）

(9) ウイルス病

(生態と防除のねらい)

① 温州萎縮病・カンキツモザイク病 *Satsuma dwarf virus* (SDV) ・ *Citrus mosaic virus* (CiMV)

- 1) 温州萎縮病は、ほとんどすべてのカンキツに感染し、温州みかんの他1～2品種のみ船型葉、さじ型、枝の叢生などの症状が現れる。
- 2) カンキツモザイク病もほとんどのカンキツに感染するが症状を現すのは、温州みかんが主体である。
葉の症状は前者と同様であるが概ね軽く、肉眼で判定出来ない場合があり、症状のないものにも果実に黄色円形紋（虎紋）を生じ商品性を失う場合がある。
- 3) 両者とも接ぎ木による伝染の他に土壤伝染もする。このため、圃場では罹病樹を除いた後に新しく植えた苗にも伝染する。
- 4) 高接ぎ更新では一本の中間台に数多くの穂木を接ぎ木にするので、その中の一本でもウイルスを保毒していると、その樹全体がウイルスを保毒することになる。
そのため、蔓延速度が極めて速い。
- 5) 穂木は検定によって無毒であることが確認された母樹から採穂する。
- 6) 罹病樹は抜き取り焼却するか健全樹との間に根が分布する深さの溝を設ける。

② トリステザウイルスによる病害 *Citrus tristeza virus* (CTV)

- 1) 病原ウイルスは、各種カンキツが保毒している。
- 2) ステムピッチング系 (CTV-SP) とシールドリングイエローズ系 (CTV-SY) に分けられ、カラタチは両系統に対し免疫に近い抵抗性を示す。
接ぎ木伝染の他にミカンクロアブラムシに媒介され虫媒伝染する。
- 3) ステムピッチング系は、ユズ・八朔・文旦・甘夏・ネーブル・清見・セミノール等で被害が大きいが、温州みかんは強く、強毒系が感染しても生育にはほとんど影響しない。
- 4) シールドリングイエローズ系に対しては、八朔・文旦・甘夏・ユレカレモン等は極端に弱い、これらの品種が現場圃場で保毒していることはほとんどない。
これに対し温州みかん等のマンダリン系やネーブル等のスイートオレンジ系は抵抗性であるにもかかわらずステムピッチング系とシールドリングイエローズ系の両方を保毒していることが多い。
- 5) 抵抗性品種の中間台に感受性の高い品種を高接ぎすると活着、生育が不良になる場合があり、逆の場合は中間台まで生育不良になることがある。
やむをえず高接ぎ更新する場合でも穂木は、無害化して弱毒ウイルスを接種した母樹から採穂する。
- 6) 苗木による更新を行い、高接ぎ更新はなるべく避ける。

③ 接木部異常病 *Apple stem grooving virus* (ASGV)

- 1) 罹病樹は、接ぎ木部とカラタチ台との間に界層を形成し、わい化・衰弱・台負け・くびれを生じる。
- 2) 高しゅう系ポンカンの大部分と水晶文旦、温州みかんの一部が保毒しているが、カラタチ以外の台木の場合は、保毒していても病徴を示さない。
- 3) 接ぎ木により伝染するので穂木は検定済みの健全母樹から採取する。
- 4) 罹病樹には、ユズやシークワシャーの根接ぎを行えば樹勢をある程度回復出来るが、ウイルスが除かれるわけではないのでなるべく早く伐採する。

(10) ウイロイド病

(生態と防除のねらい)

① エクソコーティス病 *Citrus exocortis viroid* (CEVd)

- 1) カラタチ台木部の樹皮に亀裂を生じて剥皮する。このため樹体が衰弱し生産性、品質が低下する。
- 2) 接ぎ木によって伝染する他、剪定ハサミ、ノコギリ、接ぎ木ナイフ等でも伝染する。
保毒樹または保毒の疑われる樹に使用した器具は、家庭用塩素系漂白剤原液に浸して消毒し、水洗いしてから再使用する。
- 3) 罹病樹はなるべく早く伐採する。

② ウイロイド病 *Citrus bent leaf viroid* (CBLVd), *Hop stunt viroid* (HpSVd), *Citrus dwarfing viroid* (CDVd), *Citrus bark cracking viroid* (CBCVd) など

- 1) エクソコーティス病と同様、カラタチ台木部の樹皮に亀裂を生じて剥皮する場合もあるが、外見上、顕著な病徴を示さないことも多い。
- 2) エクソコーティス病と同様、接ぎ木によって伝染する他、剪定ハサミ、ノコギリ、接ぎ木ナイフ等でも伝染する。
保毒樹または保毒の疑われる樹に使用した器具は、家庭用塩素系漂白剤原液に浸して消毒し、水洗いしてから再使用する。
- 3) 保毒ウイロイドの種類によっては顕著な病徴は現れないが、罹病樹は伐採し無毒苗に更新していくことが望ましい。

かんきつ（殺虫剤）

指針採用農薬一覧表

病害虫名 農薬名（商品名）	カイガラムシ類	ヤノネカイガラムシ	ナシマルカイガラムシ （サンホーゼカイガラムシ）	ロウムシ類	コナカイガラムシ類	ミカンハダニ	ミカンサビダニ	チャノホコリダニ	コナジラミ類	コアオハナムグリ ケシキスイ類	アブラムシ類	ミカンハモグリガ	チャノミドリヒメヨコバイ	ハマキムシ類	クワゴマダラヒトリ ケムシ類	ゴマダラカミキリ	ミカンナガタマムシ	カネタタキ	カメムシ類	アザミウマ類	チャノキイロアザミウマ	ミカンキイロアザミウマ	ネギアザミウマ	ナメクジ類 カタツムリ類	ワタミヒゲナガゾウムシ	アゲハ類	ハスモンヨトウ	ミカンバエ
アクトラ顆粒水溶剤				●	●					●	●	●				●				●	●							●
アクトラ粒剤5					△（苗木）							●（苗木）																
アグリメック							●	●				△								●				△				
アグロスリン水和剤											△									△		△						●
アタックオイル	●					●	△													△		△						
アディオン乳剤											△	△								●		△						
アドマイヤーフロアブル	●										●	●				●			●	●			●					●
アドマイヤープラスフロアブル					●						△	●				△			△	△								●
アドマイヤー1粒剤												●（苗木）				△			△									●
アニキ乳剤							△	●													△					●		
アフーム乳剤												△*								●*								
アブロードエースフロアブル	●						●	●																				
アブロードフロアブル	●				●				●																			
アブロード水和剤	●				●				●																			
アークリン水和剤										△				●				●				△						●
ウララ50DF											●																	
エクシレルSE										●	●（苗木）	●	●	●	●	●（苗木）	△	△		△		●				●（苗木）	●	
エスマルクDF														●	△					●		●						
エコビタ液剤						●					●																	
エルサン乳剤	●	●					△		●	△	△	△		△		●			●	●								●
園芸用キンチョールE																●												
オマイト水和剤						●	●									●												
オリオン水和剤40	●				●					●	●	●		●	●	△		△		●						●		●
カネマイトフロアブル						●		●						●	●			△										
グレースシアフロアブル							△	△							△	●		△		●								
コテツフロアブル							●	●										●		●		●						●
コルト顆粒水和剤	△								△		●										△							●
コロマイト水和剤						●	●	●																				
サフオイル乳剤						●	△																					
サルファーゾル						●	●																					
サンマイト水和剤						△	●	●	△	△	●	△	●				△				△							
スタークル/アルバリン顆粒水溶剤		△	△		●		●	●	△	△	●	△	●				△		●		△							●
スターマイトフロアブル						●		●																				
スターマイトプラスフロアブル					●	●	●	●																				
スピノエースフロアブル												△							●	●		●				△		
スミチオン乳剤			●		●					△	△			●				●	●	●			●				△	
スミロディー乳剤						△				●	●	△		●	●			●	●	●		△	△					
スラコ																												
スワルスキープラスUM						●（施設）																						
システムスワルクんロング						●（施設）																						
ゼンターリ顆粒水和剤														●														
ダニオーテフロアブル						●																						
ダニゲッターフロアブル						●		●																				
ダニサラバフロアブル						●※																						
ダニコングフロアブル						●																						
ダブルフェースフロアブル						●	●	●																				
ダントツ水溶剤			△	●	●				△	△	●					●		△	●	●						●		●
ダントツ粒剤												●（苗木）														●		
ディアナWDG									△	△		●		●	●				●	●						●	●	
テッパン液剤										△		△			△	△				△						△		●
デナボン水和剤50									△*	△*	△*			△*	△		●*			△*								

●：指針採用、△：指針には採用していないが登録がある、*：みかん登録、**：みかん・なつみかん登録、

かんきつ（殺虫剤）
指針採用農薬一覧表

病害虫名 農薬名（商品名）	カイガラムシ類	ヤノネカイガラムシ	ナシマルカイガラムシ（サンホーゼカイガラムシ）	ロウムシ類	コナカイガラムシ類	ミカンハダニ	ミカンサビダニ	チャノホコリダニ	コナジラミ類	コアオハナムグリ ケシキスイ類	アブラムシ類	ミカンハモグリガ	チャノミドリヒメヨコバイ	ハマキムシ類	クワゴマダラヒトリ ケムシ類	ゴマダラカミキリ	ミカンナガタマムシ	カネタタキ	カメムシ類	アザミウマ類	チャノキイロアザミウマ	ミカンキイロアザミウマ	ネギアザミウマ	ナメクジ類 カタツムリ類	ワタミヒゲナガゾウムシ	アゲハ類	ハスモンヨトウ	ミカンバエ
テルスター水和剤											△	△							●		●			●				
テルスターフロアブル										△	△	△	●					△	●	△							●	
トランスフォームフロアブル	●				●						●					●				●								
粘着くん水和剤						●					●																	
ノーモルト乳剤							●				●															●**		
ハーベストオイル	●					●						●**																
バイオリサ・カミキリ																●												
ハチハチフロアブル					△		●	●	△		△		●			△		△		●			●	△			●	
ハマキコンーN														●						●								
バロックフロアブル						●	△													●								
ファインセーフフロアブル							△	△												●		●						
フェニックスフロアブル														●	●					●						●	●	
フロンサイドSC						△	△	●						●												●		
ベストガード水溶剤											△									●		●						
マイキラー																								●				
マイキラーL																								●				
マイトコーネフロアブル						●	●																					
マシン油乳剤95	●					●	△																					
マッチ乳剤							●					●																
マラソン粉剤3						△						●										●				△		
ミクロデナボン水和剤85										△*	△*						●*			△							●	
モスビランSL液剤	●				●				△	●	●	●				●				△	●			●		●	●	
モスビラン顆粒水溶剤	●				●				△	●	●	●				●				△	●		●			●	●	
モスビラン粒剤										△	●（苗木）	●（苗木）									●					●	●	
モベントフロアブル	●					△	△	△	△		●									●								
モレスタン水和剤						●	●	●																				
ヨトウコンーH																											●	
ロディー水和剤											△																●	
ロディー乳剤						△				△	△	△															●	
ロビンフッド											△		●	●	△			●	●		●							

●：指針採用、△：指針には採用していないが登録がある、*：みかん登録、**：みかん・なつみかん登録、

(1) カイガラムシ類

農薬名			毒性	備考
IRAC	商品名	一般名		
UNM	アタックオイル	マシン油乳剤 9 7	普	かんきつ
UNM	ハーベストオイル	マシン油乳剤 9 7	普	かんきつ
UNM	マシン油乳剤 9 5	マシン油乳剤 9 5	普	かんきつ
1A	オリオン水和剤40	アラニカルブ水和剤	劇	かんきつ
1B	エルサン乳剤	P A P 乳剤	劇	かんきつ カイガラムシ類（ヤノネカイガラムシを除く）
4A	アドマイヤーフロアブル	イミダクロプリド水和剤	劇	かんきつ
4A	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	劇	かんきつ
4A	モスピランSL液剤	アセタミプリド液剤	劇	かんきつ
4C	トランスフォームフロアブル	スルホキサフロル水和剤	普	かんきつ
16	アブロード水和剤	ブプロフェジン水和剤	普	みかん かんきつ（みかん、すだちを除く） カイガラムシ類幼虫
16	アブロードフロアブル	ブプロフェジン水和剤	普	みかん かんきつ（みかんを除く） カイガラムシ類幼虫
21A 16	アブロードエースフロアブル	フェンピロキシメート・ブプロフェジン水和剤	普	みかん かんきつ（みかんを除く）
23	モベントフロアブル	スピロテトラマト水和剤	普	かんきつ

（薬剤使用上の注意事項）

- ① 上記の薬剤は、ヤノネカイガラムシ、ナシマルカイガラムシ、ロウムシ類、イセリヤカイガラムシ、コナカイガラムシ類の防除に使用できる。
- ② マシン油乳剤は、収穫後の樹勢回復を待ち厳寒期に入る前に晴天が2～3日続きそうな日を見定め散布する。
- ③ アブロード水和剤、アブロードフロアブル、エルサン乳剤は、1 齢幼虫の最多寄生期に散布する。
- ④ モベントフロアブルは殺ダニ剤ダニゲッターフロアブルと I R A Cコードが23で同じであるため、ダニゲッターを使用する場合はモベントを使用しない。

(2) ヤノネカイガラムシ

（生態と防除のねらい）

- ① 本種のための登録薬剤は少ないため、“カイガラムシ類”登録の薬剤を使用する。
- ② 薬剤防除の効果が大きく、また天敵（寄生蜂）の定着により一般に低密度に保たれている。
- ③ 越冬虫の密度が高い場合は、その年の発生量が多くなるので、12月～1月上旬にマシン油乳剤で防除する。なお、本剤は本虫以外の各種樹上越冬害虫にも有効である。

農薬名			毒性	備考
IRAC	商品名	一般名		
1B	エルサン乳剤	P A P 乳剤	劇	かんきつ

(3) ナシマルカイガラムシ（サンホーゼカイガラムシ）

（生態と防除のねらい）

- ① 本種のための登録薬剤は少ないため、“カイガラムシ類”登録の薬剤を使用する。
- ② 1 齢幼虫最多寄生期に散布する。
- ③ 枝幹に発生が多いので、かけもれのないように散布する。
- ④ 幼虫で越冬するので、冬期におけるマシン油乳剤の効果が特に高く、この時期の丁寧な散布で多発生を防ぐことができる。

農薬名			毒性	備考
IRAC	商品名	一般名		
1B	スミチオン乳剤	M E P 乳剤	普	みかん かんきつ（みかんを除く）

- (4) ロウムシ類
(生態と防除のねらい)
① 本種のための登録薬剤は少ないため、“カイガラムシ類”登録の薬剤を使用する。
② ルビーロウムシは、ルビーアカヤドリコバチによる生物防除を第一とする。
③ ツノロウムシは見かけほど実害が無いので、すす病が発生するほど多発した場合のみ薬剤を散布する。
④ 7月上・中旬の1～2齢幼虫発生最盛期に散布する。

農薬名		毒性	備考
IRAC	商品名		
4A	ダントツ水溶剤	クロチアニジン水溶剤	普 かんきつ ツノロウムシ
4A	アクトラ顆粒水溶剤	チアメトキシサム水溶剤	普 かんきつ

- (5) イセリヤカイガラムシ
(生態と防除のねらい)
① 本種のための登録薬剤はないので、“カイガラムシ類”登録の薬剤を使用する。散布時期はヤノネカイガラムシに準じる。
② 4～5月の薬剤散布を控えてベダリアテントウムシを保護すれば、生物的防除も可能である。

- (6) コナカイガラムシ類
(生態と防除のねらい)
① 本種のための登録薬剤は少ないため、“カイガラムシ類”登録の薬剤を使用する。
② 散布時期、使用法はヤノネカイガラムシに準じるが、6月の幼虫発生期に防除する。
③ 葉裏に寄生が多いので、かけもれないように散布する。

農薬名		毒性	備考
IRAC	商品名		
1A	オリオン水和剤 40	アラニカルブ水和剤	劇 かんきつ カイガラムシ類
1B	スミチオン乳剤	M E P 乳剤	普 みかん かんきつ（みかんを除く）
4A	アクトラ顆粒水溶剤	チアメトキシサム水溶剤	普 かんきつ
4A 2B	アドマイヤープラスフロアブル	イミダクロプリド・エチプロール水和剤	劇 かんきつ
4A	スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	普 かんきつ
4A	ダントツ水溶剤	クロチアニジン水溶剤	普 かんきつ
4A	モスピラン S L 液剤	アセタミプリド液剤	劇 かんきつ カイガラムシ類
4A	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	劇 かんきつ カイガラムシ類
4C	トランスフォームフロアブル	スルホキサフロル水和剤	普 かんきつ カイガラムシ類
16	アブロードフロアブル	ブプロフェジン水和剤	普 かんきつ カイガラムシ類幼虫
16	アブロード水和剤	ブプロフェジン水和剤	普 かんきつ カイガラムシ類幼虫

(7) ミカンハダニ

(生態と防除のねらい)

① 春先からの防除を容易にするため、越冬期から発芽前のマシン油乳剤による防除を徹底する。

② 同一薬剤の使用は、年1回までとする。

③ 要防除水準は、雌成虫の寄生葉率30～40%（1葉当たり0.5～1頭）とする。

農薬名		毒性	備考
IRAC	商品名		
6	コロマイト水和剤	ミルベメクチン水和剤	普 かんきつ ハダニ類
10B	バロックフロアブル	エトキサゾール水和剤	普 みかん かんきつ（みかんを除く）
12C	オマイト水和剤	BPPS水和剤	普 みかん かんきつ（みかんを除く） ハダニ類
20B	カネマイトフロアブル	アセキノシル水和剤	普 かんきつ
20D	マイトコーネフロアブル	ピフェナゼート水和剤	普 かんきつ
23	ダニゲッターフロアブル	スピロメシフェン水和剤	普 かんきつ
25A	スターマイトフロアブル	シエノピラフェン水和剤	普 かんきつ
25A	注）ダニサラバフロアブル	シフルメトフェン水和剤	普 かんきつ
25A 21A	スターマイトプラスフロアブル	シエノピラフェン・ピリダベン水和剤	劇 かんきつ
25B	ダニユングフロアブル	ピフルブミド水和剤	普 かんきつ
25B 21A	ダブルフェースフロアブル	ピフルブミド・フェンピロキシメート水和剤	普 かんきつ
33	ダニオーテフロアブル	アシノナビル水和剤	普 かんきつ
UN	モレスタン水和剤	キノキサリン系水和剤	普 みかん かんきつ（みかんを除く） ハダニ類
	サフオイル乳剤	調合油乳剤	普 かんきつ
－	スワルスキープラスUM	スワルスキーカブリダニ剤	－ 果樹類（施設栽培）
－	システムスワルクんロング	スワルスキーカブリダニ剤	－ かんきつ（施設栽培） ※パンカーシートとセットで使用
	エコビタ液剤	還元澱粉糖化物液剤	普 かんきつ
	粘着くん水和剤	デンプン水和剤	普 かんきつ
	アタックオイル	マシン油乳剤97	普 かんきつ
UNM	ハーベストオイル	マシン油乳剤97	普 かんきつ
UNM	マシン油乳剤95	マシン油乳剤95	普 かんきつ ハダニ類 ハダニ類の越冬卵

(薬剤使用上の注意事項)

① 越冬期防除は、厳寒期に入る前、晴天が2～3日続きそうな日を見定めマシン油乳剤を散布する。

② 越冬期防除が出来なかった場合は、3月にマシン油乳剤(97%)80倍を散布する。

③ マシン油乳剤(97%)は、温州では6月下旬まで、その他のカンキツでは6月中旬までに散布する。ただし、開花期以降にデランフロアブルを散布した園では、30日以上経過してから使用する。

④ オマイト水和剤は10月中旬以前に散布すると、着色阻害を起こすことがあるが、完全に着色すると消失する。

(8) ミカンサビダニ

(生態と防除のねらい)

① 前年多発園では本虫の密度上昇が早く、被害果の発生が多くなるので早期の散布を心がける。

② 果実被害が散見されてからの散布では手遅れとなる場合があるので、6月下旬～7月上旬に予防散布する。

③ 多発年では後期発生に備えて9～10月に更に1回散布する。

④ 裾枝、ふところの果実にもよくかかるよう丁寧に散布する。

農薬名				毒性	備考
IRAC	商品名	一般名			
UN	サルファーゾル	水和硫黄剤	普	かんきつ	
6	アグリメック	アバメクチン乳剤	劇	かんきつ	
6	コロマイト水和剤	ミルベメクチン水和剤	普	かんきつ	
12C	オマイト水和剤	B P P S 水和剤	普	みかん かんきつ（みかんを除く） サビダニ類	
13	コテツフロアブル	クロルフェナビル水和剤	劇	かんきつ	
15	マツチ乳剤	ルフェスロン乳剤	普	みかん かんきつ（みかんを除く）	
20B	カネマイトフロアブル	アセキノシル水和剤	普	かんきつ	
20D	マイトコーネフロアブル	ピフェナゼート水和剤	普	かんきつ	
21A	サンマイト水和剤	ピリダベン水和剤	劇	かんきつ	
21A	ハチハチフロアブル	トルフェンピラド水和剤	劇	かんきつ サビダニ類	
21A 16	アブロードエースフロアブル	フェンピロキシメート・ブプロフェジン水和剤	普	みかん かんきつ（みかんを除く）	
23	ダニゲッターフロアブル	スピロメシフェン水和剤	普	かんきつ	
25A 21A	スターマイトプラスフロアブル	シエノピラフェン・ピリダベン水和剤	劇	かんきつ サビダニ類	
25B 21A	ダブルフェースフロアブル	ビフルブミド・フェンピロキシメート水和剤	普	かんきつ	
UN	モレスタン水和剤	キノキサリン系水和剤	普	みかんかんきつ（みかんを除く）	

(薬剤使用上の注意事項)

① 水和硫黄剤は、高温時の使用やマシン油乳剤との混用、近隣散布は被害が発生するおそれがあるので控える。

(9) チャノホコリダニ

(生態と防除のねらい)

① 露地では、落弁直後の幼果から10月頃まで新梢や果実で被害がみられる。

② 発生は、樹冠内部に多く初期被害を見逃しやすいので注意する。

③ 落弁期から幼果期までの防除に重点を置き、薬液が良くかかるようにていねいに散布する。

④ 施設では、被覆後に発生した新梢で被害がみられる。

農薬名				毒性	備考
IRAC	商品名	一般名			
6	アグリメック	アバメクチン乳剤	劇	かんきつ	
6	アニキ乳剤	レピメクチン乳剤	普	みかん かんきつ（みかんを除く）	
6	コロマイト水和剤	ミルベメクチン水和剤	普	かんきつ	
13	コテツフロアブル	クロルフェナビル水和剤	劇	かんきつ	
20B	カネマイトフロアブル	アセキノシル水和剤	普	かんきつ	
21A	サンマイト水和剤	ピリダベン水和剤	劇	かんきつ	
21A	ハチハチフロアブル	トルフェンピラド水和剤	劇	かんきつ	
21A 16	アブロードエースフロアブル	フェンピロキシメート・ブプロフェジン水和剤	普	みかん かんきつ（みかんを除く）	
23	ダニゲッターフロアブル	スピロメシフェン水和剤	普	かんきつ	
25A	スターマイトフロアブル	シエノピラフェン水和剤	普	かんきつ	
25A 21A	スターマイトプラスフロアブル	シエノピラフェン・ピリダベン水和剤	劇	かんきつ	
25B 21A	ダブルフェースフロアブル	ビフルブミド・フェンピロキシメート水和剤	普	かんきつ	
	フロンサイド S C	フルアジナム水和剤	普	かんきつ	
UN	モレスタン水和剤	キノキサリン系水和剤	普	みかん かんきつ（みかんを除く）	

(薬剤使用上の注意事項)

① 合成ピレスロイド剤を散布すると発生が多くなるがあるので注意する。

(10) コナジラミ類

(生態と防除のねらい)

① 散布時期、使用法はヤノネカイガラムシに準じる。

② 葉裏に寄生が多いので、かけもれないように散布する。

農薬名			毒性	備考
IRAC	商品名	一般名		
1B	エルサン乳剤	PA P乳剤	劇	かんきつ ミカント'コナジ'ラミ、ミカコナジ'ラミ
16	アブロードフロアブル	ブプロフェジン水和剤	普	みかん、かんきつ（みかんを除く） ミカント'コナジ'ラミ若齢幼虫
16	アブロード水和剤	ブプロフェジン水和剤	普	みかん、かんきつ（みかん、すだちを除く） ミカント'コナジ'ラミ若齢幼虫

(11) コアオハナムグリ、ケシキスイ類

(生態と防除のねらい)

① 開花初期～盛期に1～2回防除を行う。さらに、産地での一斉防除が効果的である。

② 防除適期を選しないよう注意する。

農薬名		毒性	備考
IRAC	商品名	一般名	
1A	オリオン水和剤40	アラニカルブ水和剤	劇 かんきつ
3A 1B	スミロディー乳剤	フェンプロパトリン・ME P乳剤	劇 みかん かんきつ（みかんを除く）
4A	アクタラ顆粒水溶剤	チアメトキサム水溶剤	普 かんきつ
4A	モスピランSL液剤	アセタミプリド液剤	劇 かんきつ
28	エクシレルSE	シアントラニリプロール水和剤	普 かんきつ

(12) アブラムシ類

(生態と防除のねらい)

① アブラムシ類は年次や園毎に発生量や発生時期に差があるので、状況を見極めて防除の要否を決める。新梢の発生数が多く、自己摘心の遅い園は注意する。

② ワタアブラムシでは、薬剤感受性が低下した個体群が見られる場合があるので、系統の異なる薬剤で防除する。

農薬名			毒性	備考
IRAC	商品名	一般名		
1A	オリオン水和剤40	アラニカルブ水和剤	劇	かんきつ
3A 1B	スミロディー乳剤	フェンプロパトリン・MEP乳剤	劇	みかん かんきつ（みかんを除く）
4A	アクタラ顆粒水溶剤	チアメトキサム水溶剤	普	かんきつ かんきつ（苗木）、主幹部に吹き付け
4A	アドマイヤーフロアブル	イミダクロプリド水和剤	劇	かんきつ
4A	スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	普	かんきつ
4A	ダントツ水溶剤	クロチアニジン水溶剤	普	かんきつ
4A	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	劇	かんきつ
4A	モスピランSL液剤	アセタミプリド液剤	劇	かんきつ
4A	モスピラン粒剤	アセタミプリド粒剤	普	かんきつ（苗木） 株元散布
4C	トランスフォームフロアブル	スルホキサフロル水和剤	普	かんきつ
9B	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン水和剤	普	かんきつ
23	モベントフロアブル	スピロテトラマト水和剤	普	かんきつ
28	エクシレルSE	シアントラニプロール水和剤	普	かんきつ（苗木）
29	ウララ50DF	フロニカミド水和剤	普	みかん かんきつ（みかんを除く）
	エコビタ液剤	還元澱粉糖化物液剤	普	かんきつ
	粘着くん水和剤	デンブシ水和剤	普	かんきつ

(薬剤使用上の注意事項)

① モベントフロアブルと殺ダニ剤ダニゲッターフロアブルはIRACコードが23で同じであるため、ダニゲッターを使用する場合はモベントを使用しない。

(13) ミカンハモグリガ

(生態と防除のねらい)

① IGR剤、カーバメート剤は5～7日、ネオニコチノイド系の薬剤は7～10日毎に散布する。

② 成虫は、夜間に活動し、日中は樹冠内の葉裏に潜んでいるので樹全体への散布が効果的である。

農薬名			毒性	備考
IRAC	商品名	一般名		
1A	オリオン水和剤40	アラニカルブ水和剤	劇	かんきつ
4A	アクタラ顆粒水溶剤	チアメトキサム水溶剤	普	かんきつ かんきつ(苗木)、主幹部に吹きつけ
4A	アドマイヤーフロアブル	イミダクロプリド水和剤	劇	かんきつ
4A	ダントツ水溶剤	クロチアニジン水溶剤	普	かんきつ かんきつ、樹幹散布 かんきつ(苗木)、樹幹散布
4A	モスビラン顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	劇	かんきつ
4A	モスビランSL液剤	アセタミプリド液剤	劇	かんきつ
5	ディアナWDG	スピネトラム水和剤	普	かんきつ
6	アニキ乳剤	レピメクチン乳剤	普	みかん かんきつ(みかんを除く)
15	ノーモルト乳剤	テフルベンズロン乳剤	普	みかん なつみかん
15	マッチ乳剤	ルフェヌロン乳剤	普	みかん かんきつ(みかんを除く)
28	エクシレルSE	シアントラニリプロール水和剤	普	かんきつ かんきつ(苗木)
4A	アクタラ粒剤5	チアメトキサム粒剤	普	かんきつ(苗木) 株元散布
4A	アドマイヤー1粒剤	イミダクロプリド粒剤	普	かんきつ(苗木) 株元散布
4A	ダントツ粒剤	クロチアニジン粒剤	普	かんきつ(苗木) 株元散布
4A	モスビラン粒剤	アセタミプリド粒剤	普	かんきつ(苗木) 株元散布

(薬剤使用上の注意事項)

① 同一系統の薬剤を連用せず、作用性の異なる薬剤を組み合わせた体系防除を行う。

(14) チャノミドリヒメヨコバイ

(生態と防除のねらい)

① 多発園では着色初期と5分着色期の2回、少発園では2～3分着色期に1回防除する。

② 結果量の多い園や着色の早い品種は、被害が発生しやすい。

③ 下草の多い園や茶樹が混植された園では、多発し被害が大きくなるがあるので注意する。

農薬名			毒性	備考
IRAC	商品名	一般名		
3A	テルスターフロアブル	ピフェントリン水和剤	劇	かんきつ
3A	ロディー乳剤	フェンプロパトリン乳剤	劇	かんきつ ミドリヒメヨコバイ
4A	スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	普	かんきつ
21A	ハチハチフロアブル	トルフェンピラド水和剤	劇	かんきつ ヨコバイ類
28	エクシレルSE	シアントラニリプロール水和剤	普	かんきつ

(15) ハマキムシ類

(生態と防除のねらい)

① 若葉の防除を十分行い、園内のハマキムシ類の密度を下げることで、果実被害防止につながる。

② 例年果実への食害の多い園では、新梢伸長期の幼虫発生時期に防除を徹底する。

③ 本虫は圃場周辺の茶樹や防風樹のイヌマキ等にも寄生し、そこが発生源となる場合もあるので、周辺の管理を徹底する。

④ 果樹類で登録のあるBT剤も使用できる。

農薬名		毒性	備考
IRAC	商品名		
1B	スミチオン乳剤	MEP乳剤	普 みかん かんきつ（みかんを除く）
1A	オリオン水和剤 40	アラニカルブ水和剤	劇 かんきつ
3A	アーケリン水和剤	エトフェンプロックス水和剤	普 かんきつ チャノコカクモンハマキ
3A	ロディー乳剤	フェンプロバトリン乳剤	劇 かんきつ
5	ディアナWDG	スピネトラム水和剤	普 かんきつ
11A	エスマルクDF	BT水和剤	－ 果樹類
11A	ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	－ 果樹類
28	エクシレルSE	シアントラニリプロール水和剤	普 かんきつ
28	フェニックスフロアブル	フルベンジアミド水和剤	普 かんきつ
－	ハマキコンーN	トートリルA剤	普 本剤を枝にかける 果樹類 チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、ミダレカクモンハマキ、リンゴコカクモンハマキ、リンゴモンハマキ

(16) クワゴマダラヒトリ、ケムシ類

(生態と防除のねらい)

① 本虫の発生は局地的であるが、時に突発的に発生して大きな被害を出すことがあるので注意する。

② 秋期の若齢幼虫による果実被害と春期の老齢幼虫による新芽の被害が問題となる。

③ 産卵植物（カラスノザンショウ、アカメガシワ、クワ、ニセアカシアなど）に限られるので、カンキツ園周辺にそれらの樹木がある場合は注意する

農薬名		毒性	備考
IRAC	商品名		
1A	オリオン水和剤 40	アラニカルブ水和剤	劇 かんきつ ケムシ類
3A 1B	スミロディー乳剤	フェンプロバトリン・MEP乳剤	劇 みかん かんきつ（みかんを除く） ケムシ類
5	ディアナWDG	スピネトラム水和剤	普 かんきつ ケムシ類
28	エクシレルSE	シアントラニリプロール水和剤	普 かんきつ ケムシ類
28	フェニックスフロアブル	フルベンジアミド水和剤	普 かんきつ ケムシ類

(17) ゴマダラカミキリ

(生態と防除のねらい)

① 園内を見回って成虫を捕殺する。

② 成虫発生期に薬剤を散布する。

③ 産卵～幼虫食入期の7月中旬から8月上旬に2回、産卵部位の地際から40～50 c.mの主幹に散布または塗布する。

④ 食入幼虫を発見した場合、針金を食入部から差し込み刺殺するか、食入部にキンチョールやロビンフッドのノズルを差し込み、逆流するまで噴射する。

農薬名		毒性	備考
IRAC	商品名		
1B	エルサン乳剤	劇	かんきつ 成虫
3A	園芸用キンチョールE	普	かんきつ 食入部にノズルを差し込み、薬剤が食入部から逆流するまで噴射する
3A	ロビンフッド	普	かんきつ、登録はカミキリムシ類 樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射
4A	アドマイヤーフロアブル	劇	かんきつ 成虫
4A	アクタラ顆粒水溶剤	普	かんきつ、成虫 かんきつ(苗木)、主幹部に吹き付け
4A	ダントツ水溶剤	普	かんきつ 散布、樹幹散布
4A	モスピラン顆粒水溶剤	劇	かんきつ 成虫 散布、主幹から株元に散布
4A	モスピランSL液剤	劇	かんきつ 成虫 散布、主幹から株元に散布
4C	トランスフォームフロアブル	普	かんきつ 成虫登録
28	エクシレルSE	普	かんきつ(苗木)、成虫
30	グレーシアフロアブル	普	かんきつ 成虫
—	バイオリサ・カミキリ	—	果樹類 地際に近い主幹の分枝部分等に架ける カミキリムシ類

(18) ミカンナガタマムシ

(生態と防除のねらい)

① 樹勢の衰弱した成木で次第に生息密度を増やし、気象被害のあった翌年などに異常発生する傾向がある。

② 平常年の防除は生息密度抑制を目的に、多発年には成虫の脱出防止と飛来成虫の直接殺虫及び産卵・幼虫食入防止を目的に薬剤防除を行う。

③ 防除は脱出成虫発生期の6～7月に行う。

農薬名		毒性	備考
IRAC	商品名		
1A	デナボン水和剤50	劇	みかん
1A	ミクロデナボン水和剤85	劇	みかん

(19) カネタタキ

(生態と防除のねらい)

① 8月中旬頃から果実の被害が問題となる。

② 薄暗いところを好む性質があるので、剪定で防風垣との接触をなくし、園内を明るくする。また、イヌマキ等の防風樹の剪定を行う。

③ 8月の成虫発生期の防除が有効。

農薬名		毒性	備考
IRAC	商品名		
1B	スミチオン乳剤	普	みかん かんきつ(みかんを除く)
3A	アークリン水和剤	普	かんきつ
3A	ロディー乳剤	劇	かんきつ
13	コテツフロアブル	劇	かんきつ

(20) カメムシ類

(生態と防除のねらい)

① カメムシ類の果実に対する吸汁加害は落果の原因となるため、早期発見と早期防除に努める。

② 加害は通常の年であれば9月中旬頃から(早い年では8月中旬頃から)始まる。しかし、越冬量が極めて多い年には開花期頃から飛来に注意する。

③ 極早生、早生温州の被害が多いので、多飛来を認めた場合は早急に防除する。

農薬名				
IRAC	商品名	一般名	毒性	備考
1B	エルサン乳剤	P A P 乳剤	劇	かんきつ
1B	スミチオン乳剤	M E P 乳剤	普	みかん かんきつ (みかんを除く)
3A 1B	スミロディー乳剤	フェンプロパトリン・M E P 乳剤	劇	みかん かんきつ (みかんを除く)
3A	アディオオン乳剤	ベルメトリン乳剤	普	かんきつ
3A	テルスター水和剤	ビフェントリン水和剤	普	かんきつ
3A	テルスターフロアブル	ビフェントリン水和剤	劇	かんきつ
3A	ロディー乳剤	フェンプロパトリン乳剤	劇	かんきつ
4A	アクタラ顆粒水溶剤	チアメトキサム水溶剤	普	かんきつ
4A	アドマイヤーフロアブル	イミダクロプリド水和剤	劇	かんきつ
4A	スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	普	かんきつ
4A	ダントツ水溶剤	クロチアニジン水溶剤	普	かんきつ

(21) アザミウマ類

農薬名				
IRAC	商品名	一般名	毒性	備考
1A	オリオン水和剤 4 0	アラニカルブ水和剤	劇	かんきつ
1B	エルサン乳剤	P A P 乳剤	劇	かんきつ
1B	スミチオン乳剤	M E P 乳剤	普	みかん かんきつ (みかんを除く)
4A	アクタラ顆粒水溶剤	チアメトキサム水溶剤	普	かんきつ
4A	アドマイヤーフロアブル	イミダクロプリド水和剤	劇	かんきつ
4A	ダントツ水溶剤	クロチアニジン水溶剤	普	かんきつ
4A	ベストガード水溶剤	ニテンピラム水溶剤	普	かんきつ
4A	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	劇	かんきつ
4A	モスピランS L 液剤	アセタミプリド液剤	劇	かんきつ
4C	トランスフォームフロアブル	スルホキサフロル水和剤	普	かんきつ
5	スピノエースフロアブル	スピノサド水和剤	普	かんきつ
5	ディアナWD G	スピネトラム水和剤	普	かんきつ
6	アグリメック	アバメクチン乳剤	劇	かんきつ
6	アフアーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	普	みかん
13	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	劇	かんきつ アザミウマ類 (ネギアザミウマを除く)
21A	ハチハチフロアブル	トルフェンピラド水和剤	劇	かんきつ
23	モベントフロアブル	スピロテトラマト水和剤	普	かんきつ
28	エクシレルS E	シアントラニリプロール水和剤	普	かんきつ
29	ウララ5 0 D F	フロニカミド水和剤	普	みかん かんきつ (みかんを除く)
30	グレーシアフロアブル	フルキサメタミド水和剤	普	かんきつ
34	ファインセーブフロアブル	フロメトキン水和剤	劇	かんきつ

(22) チャノキイロアザミウマ

(生態と防除のねらい)

① 本種のための登録薬剤は少ないため、“アザミウマ類”登録の薬剤を使用する。

② 果実への加害は5月中旬～9月と長期にわたるが、主な加害時期は第二世代成虫期（6月中旬）あるいは第三世代成虫期（7月中旬）と第4～5世代成虫期（8月中・下旬）の3回であ

③ 加害期間が長いので、多発園では5月中旬～9月上旬まで4～5回防除する必要がある。

④ イヌマキの防風樹がある園ではイヌマキが発生源となり被害が多くなるので注意する。

⑤ 比較的乾燥する年に多発する傾向がある。

農薬名		毒性	備考
IRAC	商品名		
3A	テルスター水和剤	ビフェントリン水和剤	普 かんきつ
3A	ロディー乳剤	フェンプロパトリン乳剤	劇 かんきつ
15	マッチ乳剤	ルフェエロン乳剤	普 みかん かんきつ（みかんを除く）

(23) ミカンキイロアザミウマ

(生態と防除のねらい)

① ハウス栽培の果実が加害され問題となる。

② 加害は、果実の着色初期から始まり着色が進むに従い被害も増加する。

③ 発生を確認した場合は直ちに防除する。

④ 一旦、侵入すると根絶は難しいので、定期的に発生調査を行い初期防除に努める。

農薬名		毒性	備考
IRAC	商品名		
4A	ベストガード水溶剤	ニテンピラム水溶剤	普 かんきつ アザミウマ類
5	スピノエースフロアブル	スピノサド水和剤	普 かんきつ アザミウマ類
13	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	劇 みかんは常温煙霧 かんきつはアザミウマ類（ネギアザミウマを除く）
28	エクシレルSE	シアントラニリプロール水和剤	普 かんきつ アザミウマ類
29	ウララ50DF	フロニカミド水和剤	普 みかん かんきつ（みかんを除く） アザミウマ類
34	ファインセーブフロアブル	フロメトキン水和剤	劇 かんきつ アザミウマ類

(24) ネギアザミウマ

(生態と防除のねらい)

① ハウス栽培の果実が加害され問題となる。

② 加害は、果実の着色前の青い時期から始まり着色期に入っても行われる。

③ 果皮に白いかすり状の被害が発生する。程度が著しい場合は、褐変・腐敗する。

④ 定期的に発生調査を行い初期防除に努める。

農薬名		毒性	備考
IRAC	商品名		
4A	アドマイヤーフロアブル	イミダクロプリド水和剤	劇 アザミウマ類
4A	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	劇 かんきつ アザミウマ類
4A	モスピランSL液剤	アセタミプリド液剤	劇 かんきつ アザミウマ類
21A	ハチハチフロアブル	トルフェンピラド水和剤	劇 かんきつ アザミウマ類

(25) ナメクジ類、カタツムリ類

(生態と防除のねらい)

① 主たる加害時期は秋期で、雨が続く場合は特に警戒を要する。常発園では5～6月に密度低下のための防除が必要となる。梅雨期や秋雨期の発生に注意する。

② 園地の乾燥に努め、果実が地面に接しないようにする。

農薬名			毒性	備考
IRAC	商品名	一般名		
	スラゴ	磷酸第二鉄粒剤	普	ナメクジ類及びカタツムリ類の発生あるいは加害を受けた場所又は株元に配置 適用場所は、温室、ハウス、圃場、花壇
	マイキラー	メタアルデヒド水和剤	劇	かんきつ メタアルデヒド剤として6回以内（但し、散布及び株元散布は合計3回以内）
	マイキラーL	メタアルデヒド水和剤	普	かんきつ メタアルデヒド剤として6回以内（但し、散布及び株元散布は合計3回以内）

(26) ワタミヒゲナガゾウムシ

(生態と防除のねらい)

① ハウス栽培では、樹上で腐敗し乾燥した果実や、落下した果実に幼虫や蛹が寄生している。

② 加害期間は、幼果期～収穫期までと長い。幼果ではがく部が加害され被害果は黄変し落果する。成熟果では果皮及び果肉が加害され、さらに産卵後はふ化した幼虫が果肉を加害

③ 被害果は腐敗し、落果する。成虫の寄生が認められたら直ちに防除する。

農薬名			毒性	備考
IRAC	商品名	一般名		
3A	テルスター水和剤	ピフェントリン水和剤	普	かんきつ

(27) アゲハ類

(生態と防除のねらい)

① 食害は成虫では問題にならないが、新梢の多い、苗木や高接ぎ樹では新芽や若い葉に大きな被害を受ける。

② 通常は寄生蜂や捕食性の天敵によって密度が抑制されるため、大発生する事は少ない。

③ 終齢幼虫に対しては薬剤の防除効果が劣るので、早期発見・早期防除が必要である。

農薬名			毒性	備考
IRAC	商品名	一般名		
1A	オリオン水和剤 40	アラニカルブ水和剤	劇	かんきつ
4A	ダントツ水溶剤	クロチアニジン水溶剤	普	かんきつ
4A	モスピランSL液剤	アセタミプリド液剤	劇	かんきつ
4A	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	劇	かんきつ
5	ディアナWDG	スピネトラム水和剤	普	かんきつ
6	アニキ乳剤	レピメクチン乳剤	普	みかん かんきつ（みかんを除く）
15	ノーモルト乳剤	テフルベンズロン乳剤	普	みかん なつみかん
28	フェニックスフロアブル	フルベンジアミド水和剤	普	かんきつ
28	エクシレルSE	シアントラニリプロール水和剤	普	かんきつ かんきつ（苗木）

(薬剤使用上の注意事項)

① ノーモルト乳剤は若齢幼虫期に散布する。

(28) ハスモンヨトウ

(生態と防除のねらい)

① ハウス栽培では、ビニール被覆時に樹冠下の雑草に寄生する幼虫や土中の蛹をハウス内に困い込むことで、その後の発生が問題となる。

② 成虫はみかんの樹だけでなくハウスの鉄骨やビニールなどにも産卵し、ふ化幼虫が葉や果実を食害するが、特に老齢幼虫の食害が激しい。

③ 発育が進むほど薬剤の効果が劣るので、早期発見、早期防除に努める。

農薬名			毒性	備考
IRAC	商品名	一般名		
3A	ロディー水和剤	フェンプロバトリン水和剤	劇	かんきつ
5	ディアナWDG	スピネトラム水和剤	普	かんきつ
13	コテツフロアブル	クロルフェナビル水和剤	劇	かんきつ
28	エクシレルSE	シアントラニリプロール水和剤	普	かんきつ
28	フェニックスフロアブル	フルベンジアミド水和剤	普	かんきつ
	ヨトウコンーH	リトリア剤	普	ハスモンヨトウが加害する農作物、施設（施設内上部に固定する、又は枝等に巻き付ける）

(29) ミカンバエ

(生態と防除のねらい)

① 温州みかん、小みかん、ポンカン、キンカン、はるみなど果皮の薄い品種で被害が多い。

② 成虫防除、幼虫防除、着色開始期の被害果摘採（樹上選別）を体系的に実施する。

農薬名		毒性	備考
IRAC	商品名		
1A	オリオン水和剤40	アラニカルブ水和剤	劇 かんきつ ミカンバエ成虫
1B	エルサン乳剤	PA P乳剤	劇 かんきつ ミカンバエ成虫
1B	マラソン粉剤3	マラソン粉剤	普 かんきつ(なつみかんを除く)
3A	アグロスリン水和剤	シベルメトリン水和剤	劇 かんきつ ミカンバエ成虫
3A	テルスターフロアブル	ビフェントリン水和剤	劇 かんきつ ミカンバエ成虫
3A	アークリン水和剤	エトフェンブロックス水和剤	普 かんきつ ミカンバエ成虫
4A	アクタラ顆粒水溶剤	チアメトキサム水溶剤	普 かんきつ ミカンバエ幼虫・成虫
4A	アドマイヤーフロアブル	イミダクロプリド水和剤	劇 かんきつ
4A 2B	アドマイヤープラスフロアブル	イミダクロプリド・エチプロール水和剤	劇 かんきつ ミカンバエ成虫
4A	スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	普 かんきつ
4A	ダントツ水溶剤	クロチアニジン水溶剤	普 かんきつ
4A	モスピランSL液剤	アセタミプリド液剤	劇 かんきつ
4A	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	劇 かんきつ
9B	コルト顆粒水和剤	グリフルキナゾン水和剤	普 かんきつ ミカンバエ成虫
21A	ハチハチフロアブル	トルフェンピラド水和剤	劇 かんきつ ミカンバエ成虫
28	テッパン液剤	シクラニリプロール液剤	普 かんきつ ミカンバエ成虫

(薬剤使用上の注意事項)

① 防除薬剤は、かけもれがないようていねいに散布する。

② モスピランSL液剤はミカンバエ防除に優先的に使用し、他害虫に対する使用は極力控える。（使用回数3回以内）